令和８年度新潟県プレコンセプションケア推進会議　議事概要

日　時：令和８年７月 28 日（火）午後５時～午後７時
会　場：新潟県庁西回廊２階　大会議室
出席者：委員名簿のとおり

１　開　　会（平岡参事あいさつ）

２　説　　明

「プレコンセプションケアに関する国の動向と県における推進の必要性について」
〇事務局から資料１について説明

３　情報提供

「プレコンセプションケアの概念と取り組みの必要性について」
情報提供：済生会新潟県央基幹病院　助産師 母性看護専門看護師　吉森 容子　氏
〇吉森氏から資料２について説明

４　議　　事

（１）新潟県プレコンセプションケア推進計画素案について
（２）プレコンセプションケアに関する各団体の取り組みについて

〇事務局から資料３、４について説明。
〇委員より議事（１）、（２）を合わせて意見及び報告をいただく。
→主な意見、取組は以下のとおり

【学識経験者、保健・医療関係団体】

〇産婦人科医が地域に出て啓蒙活動を行っていくことも重要。
〇HPV ワクチンの接種率は、打つ人と打たない人で固定化している。妊娠・出産を考える、子育てをしている年齢で子宮頸がんと診断され、なくなる事例もあるため、子宮頸がん等予防できるはずの病気は予防できるに越したことはない。
〇若い時からのやせの問題ある、若い時から痩せていて更年期でも痩せていると将来骨粗鬆症になりやすい。学校教育とも関連してくるため、教育関係者とタイアップしながら正しい情報を伝えていくことも産婦人科の１つの役割であると考えている。
〇命の教育、生と性に関する講座を年間延３万人前後に実施しているが、講師料が支払えない団体もあり、県からも補助をしていただけるとありがたい。
〇看護職員自身のウェルビーイング向上支援として、令和７年度県内２病院の看護職員を対象に、プレコンセプションケアや更年期の健康課題について講師から講義を実施。
〇処方箋がなくても色々な健康増進支援ができる薬局として取組を実施しているところ。妊娠中や持病のある方の服薬相談や指導を実施。緊急避妊薬に関する県民への正しい情報提供や適正販売、相談支援の場として薬局を使ってもらえるよう周知を行っていく。
〇県内 15 の高校を対象に実施する米の消費拡大を目的としたプログラムの中にプレコンセプションケアを意識した講義を取り入れられるように検討したい。

【教育団体】

○学習指導要領や手引きに基づいた各学年を対象とした保健の授業や講演会を各学校で実施。

○保健室での相談対応を実施。月経痛や痩せ願望を持つ生徒の話、性交後の月経に関する話を聞く。緊急避妊薬に対する正しい知識が無く飲めば大丈夫という生徒もいるため、指導が必要。

○これまで学習指導要領や各種手引きをもとに実施してきた性教育とプレコンセプションケアの考え方や違いについて教育現場でも取り組んでいくために整理が必要。

○専門学校は資格取得が主となるため、プレコンセプションケアに触れるチャンスがなかった。教職員も知らなかったため、まずは早急に教職員に対してプレコンセプションケアに関する指導をすることが必要。

【関係団体】

○学校卒業後や親世代が所属するのは「職域」の分野となるため、企業、職域分野でのプレコンセプションケアについて協力していきたい。

○企業がプレコンセプションケアについて考える機会はなかったため、理解を深めて啓発活動に取り組んでいきたい。一般県民への周知が一番必要であると考えられるため、市町村や団体等を活用しながら啓発活動を行っていくことを検討してもらいたい。

○産業医や産業保健職、衛生管理者向けに女性の健康面に配慮した職場環境を作るためのセミナーを開催。

○県が協定を結んで県民に利用を進めている「ルナルナ」アプリを活用してプレコンセプションケアの情報発信を行うことで県の取組に協力できるのではないか。

○県内唯一のユースクリニックを開設。全国 60 か所ほどで、人員不足や資金不足等による継続性が課題となっている。

○思春期以降により具体的な体の知識を習得していくために、その前段階として大人と体や性、ライフプランの話をしても良い、という安心できる関係性をどのように築いていくかが非常に重要。誰かと親密になることについての啓発が体の健康の先に土台として必要なため、体の健康づくりとあわせて関係性づくりについて、どのように早い年齢から継続的に繰り返し学んでもらうかという視点を取り入れていけるとより、新潟独自で、効果的な計画になるのではないか。

【行政】

○庁内の関係部署と連絡会議を開催し全庁挙げてプレコンセプションケアに取り組んでいるところ。市内一部のみで実施していた健康教育を統一した教材を作成し全市展開を予定している。

○各課で必要な取組、事業を進めてきたところ。高校卒業後、１人暮らしが始まって親の目が離れる生徒も多いため、高校生世代にプレコンセプションケアに関する話を１回は聞く機会のある件になると良い。

○市内の中学校、高校に対する助産師会と協力した健康教育やこどもに関わる従事者を対象にした医師からの講演会等を実施。今後は専門学校や大学と連携した取組を検討中。健康増進計画にもプレコンセプションケアに関する指標を取り入れ、庁内各部署と連携した取組を進めているところ。

【全体を通した意見】

○今回推進会議を行ったところだが、今後は県がリーダーシップをとって取組を進めていく認識で良いのか。様々な現場の声も吸い上げたものを誰がどのように今後進めていくのか。

〇支援をしていただきたいという要望があった時に県はどのような形で対応を想定しているか。
〇PDCA サイクルを回していかないと、プレコンセプションケアが普及しないまま計画が終わってしまうので、積極的に検討いただきたい。
〇対象の状況に応じたここだけは絶対に取り組まなければならないところを明確にする、多様な解釈であれもこれも認めますというよりも、今本当に必要なものは何か、を極めても良いのではないか。
〇プレコンサポーター養成講座基礎編は、資料も豊富なため、皆さんから受講してもらうことがプレコンセプションケアの周知啓発の具体的なアクションとしては良いのではないか。

５　閉　　会